

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひろた
(ユニット名)	ユニットA(2階)
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市広田1丁目4番7号
記入者名 (管理者)	平川雅幸
記入日	平成 20 年 11 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		今後も地域の中の一施設として垣根を越えたお付き合いができるよう、具体的な行動でわかりやすくアピールしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的開催する介護教室や、併設事業所を介して老人会や自治会に出席するなど、地域の方々との意見交換の場を持ち情報の共有に努めている。		グループホームの機能や役割を地域に還元できるように工夫をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は個々の職員が改めて自身を振り返る良い機会であると共に、これを基に施設のあり方を全員で考え改善に向けた具体的な姿勢が全体の質を高めるものとして捉えている。さらに外部評価は私たちのステップアップの起爆材として効果的に活かすことができている。		現状に甘んじることなく、評価の内容を基に具体的な改善に取り組むことの積み重ねが、施設全体のレベルアップへとつながっている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意義を理解し、事業所と地域、入居者、家族等と意見交換ができる貴重な場である。入居者や家族の意見・要望や提案も取りいれながら、よりよく生活ができるように前向きに取り組んでいる。		施設側と会議を構成する各委員の皆様にとって、会議自体が負担とならないよう開催時期や内容等を事前に吟味しながら効果的に取り組んでいけるよう努力する。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡協議会への参加や、管理者が窓口となり市との連携を図りながら、会議やミーティングで情報を共有しタイムリーに現場へ反映させている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員の研修や認知症介護現任研修に参加し、その報告書の回覧等を通して全職員が学ぶことはあるが、現在対象となるケースがないことから、知識としてはまだ浅いものがある。		権利擁護に関する研修に参加する機会を作り、知識を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は接遇の研修会には積極的に参加しており、虐待防止に関しても理解をしている。現在当施設においては職員全員が徹底して防止に努めており問題はない。		身体的虐待のみならず、言葉による虐待など精神的な面も視野に入れながら、今後も研修等で学ぶ機会も持ち、引き続き職員間で防止の徹底に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者と主任が中心となって本人及び家族のこれまでの経緯も踏まえながら、利用にあたっての不安感、疑問、希望等を時間をかけ理解して頂けるよう努めている。解約される際もその後のフォローも含め同意の下で対応をさせて頂いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口の設置の他、運営推進会議においても家族、入居者の意見を各委員に代表して述べてもらい、実際に施設の運営に反映されるなど、とても大きな力となっている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行する「こまれば通信」ではホームでの生活の様子を家族や地域の方々にタイムリーに提供している。家族の来訪時や電話連絡があった時は随時報告をしている。また、家族に個別のアルバムや個人記録の写真をお見せして安心されている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時に直接話を聞いたり、意見箱・カンファレンス・運営推進会議等を通して意見を伺い、不満・苦情が確認された場合は保留の状態を避け、即座に管理者を含めて話し合いを行い、その回答と改善に向けた動きを具体的に示すよう努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各フロアごとの職員会議、全体での会議を毎月開催し、現場の意見は運営者・管理者に聞いてもらいその都度アドバイスをもたらしている。また個人的な意見にも耳を傾け熱心に聴いてもらい解決に向けた対策等も講じてもらっている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>自施設内はもとより、併設の事業所の職員とも協同しながら、臨機応変にかつ柔軟に対応できるよう、必要時には法人全体で話し合うようにしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>必要に応じて経営者が個別に面談して相談を聞いたり、異動に関しても各ユニットの状況を踏まえながら各職員の意見等を基に、施設全体のバランスを考慮しながら対応をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の年間計画を立て、職員の参加を積極的に勧めている。参加後は資料を添付した報告書を提出し、自施設内に留まらず併設事業所の研修レポートも回覧しながら、情報の共有と知識向上に努めている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック会議に管理者と職員が積極的に参加し、他の事業所との意見交換を通じて自施設のサービス向上に反映させている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員にも気軽に声をかけ相談ごとなども個別に時間をとって対応してくれるなど、公私ともに信頼を寄せられる大きな存在である。また、法人全体で週1回小学校の体育館でのバレーの練習を通して職員間の親睦を図っている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議には必ず出席し、施設や職員の動きを常に把握するよう努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の見学や相談の際は、現在の生活や介護の現状等、周囲の状況を踏まえた上で、本人にも可能な範囲で直接聞き取り、意向などをしっかりと確認するように努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受ける際は、これまでの経過や現在の思い、今後の意向等を聴き取り現状の把握に努めている。定員の関係で自施設の対応が困難な場合は、GH連絡協議会や併設の支援センターとも連携して情報収集を行い、他の施設サービスを紹介する場合もある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査において家族の不安や要望等を確認した上で、現状に即した対応を職員間で検討し初期プランに反映させている。入居前に通所サービスを利用されていた方には希望に応じて、サービス継続の必要性を事業所側とも協議するなど、柔軟に対応をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでの手続きには本人及び家族の心情やこれまでの経緯を踏まえながら、十分に理解、納得されるよう事務的説明に留まらず、事前訪問、施設の見学、必要に応じて体験入居をして頂くなど、時間をかけて対応をするように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の中で入居者と職員が協同しながら支え合っていることをいつも実感している。共に時間を過ごさせて頂くことに職員全員が感謝しながら業務にあたっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時以外にも電話や手紙等を通して入居者一人ひとりの生活の様子をお伝えする中で、その都度意見や要望等を確認し、入居者の生活に反映できるように共に考え、支え合う関係ができていと思う。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	タイムリーに情報を共有しながら、来訪時、又は外出・外泊以外にも、施設の行事を通して本人と家族がふれ合う機会を多く持つて頂けるように支援している。		家族の協力の下、定期的に自宅へ外出されたり、毎月発行の機関紙を家族の自宅まで職員と一緒に歩いて届けられるなど、それぞれの家族の事情や意向に沿う形で支援を行っているが、今後も良い関係を築いていくために努力していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にデイを利用されていた方は、利用日に合わせ友人が遊びに来たり、こちらから出向いて行ったりするなど継続した交流が持てている。また、買物で外出した時や病院を受診した時の待合室でも、日常的に顔なじみの方と声を掛け合う光景がみられる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの個性が生活の中にさり気なく活かせるように、場面毎に役割りを持って頂き、個々の居場所も確保されている。また集団の中で個人が孤立したり不利な立場にならぬよう、状況に応じて職員が仲介に入りコミュニケーションが円滑に図れる配慮を常に心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設への入居や医療機関への入院されても、会いに行く機会を多く持つなどして継続的な関わりを大切にしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の主体者である本人の立場に立って希望や意向を把握し、個々の生活に反映できるよう努力している。自己の訴えや表現ができない方に対しては日頃の生活の様子や周囲の状況の変化等のサインを見逃さないよう職員間の申し送りで日々確認をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人と家族から情報を聞き取り、担当のケアマネジャーやサービス事業所と連携してこれまでの経過等の把握に努め、一人ひとりの生活に反映させている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録や業務日誌、ケアプランチェック表、申し送りやカンファレンスを通して個々の生活の状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント票にある本人及び家族の意見・要望・不満等の項目もチームケアに基づくものであり、本人の状態に合わせた無理のない介護計画に反映させるために、皆で話し合いながら作成をしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの内容及び実行については、その都度家族とも情報交換をしながら対応をしている。プラン変更が必要な時は早めに見直し検討を行い、現状に即したプラン作成・実行に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活チェック表で日々の健康状態を把握し、業務日誌には生活の様子や気づき、併設事業所間との連絡事項を記し、プランチェック表、カンファ前の事前検討シートを通して介護計画に反映させるなど、常に職員間で情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望やニーズに応じて、併設のデイサービス利用者との交流や、通所リハビリではリハビリの指導、また、退居後の支援等の相談を支援センター職員からアドバイスを受たり、村上医院には健康管理面の指導と、医療・介護・福祉の有機的な連携が図れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	法人全体の夏祭りでは保育園児らとの交流を図り、毎年中学校の職場体験学習の受入では入居者と学生との関係作りの絶好の機会となり、その後のボランティア育成にもつながっている。また毎月地域の老人会やボランティア団体が来訪し、年々交流の機会も充実してきている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月に一度の訪問理容・美容サービスの利用の他、併設のサービス事業所、他のデイサービス事業所とも調整をしながら、レクリエーションやリハビリ指導を曜日・時間を決めて個別に利用して頂いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設の高齢者支援センターを介して包括との連携を図ったり、運営推進会議のメンバーでもある包括のセンター長にも会議に出席された際にアドバイスを頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族付添いが困難な方に対しては職員が同伴したり、直接かかりつけ医の往診をしてもらうなど、本人と家族の意向に沿う形で体制を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携体制をとっている村上医院へ職員が情報を提供した上で、院長の判断により必要に応じて専門医療機関を受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	村上医院の看護師との意思疎通や申し送りもスムーズにできており、昼夜を問わず医療連携体制が整っている。また、自施設には看護師1名が常勤の他、併設のデイサービス、通所リハビリ、支援センターの看護師にもいつでも気軽に相談をしながら、入居者の健康管理の支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医療機関に職員が何度も足を運び状況を把握して、家族、村上医院と情報を共有しながら、退院後の受入がスムーズに運ぶように対応している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した方への支援については、家族の意向を踏まえた上でかかりつけ医と施設も交えて早期の段階から話し合い、また状態変化に応じて検討を重ねながら方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設が持つ機能を最大限に活かし可能な限り支援を行うも、状況により困難が予想される場合は、かかりつけ医または医療連携の医師の指示を仰ぎながら、家族とも十分検討した上で方針を決めていく。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に関係者との情報交換を綿密にとりながら見学や話し合いの場を設け、新しい環境への不安を少しでも取り除き安心な生活が守れるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全職員が入居者一人ひとりの人格を重んじた接遇に心がけており、記録等の個人情報にもその保管場所を統一し取り扱いには注意を払っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員主導にならないように、日頃から生活の場面ごとを書く入居者が自己決定しやすいような働きかけを行い、わかり易い暮らしの提供に心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にしながら、自由にくつろげる時間や空間の提供ができるように、職員は柔軟に対応をするよう心がけているが、その場・その時に個別の希望に沿えない場合もある。</p>	<p>その場・その時に応じきれない場合は、入居者主体を前提に職員間で話し合い、別の時間や日にちに希望に沿えるよう入居者とも話し合いながら支援を行っていく。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月1回の訪問理容・美容の利用の他、行きつけの美容店を利用される方は家族が同伴したり、職員が送迎を行うなどの対応をしている。生活のメリハリをつける意味でも毎朝の身だしなみにも必要に応じて声かけや介助の支援を行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>週単位で作る献立表は入居者の意見や要望も反映させた内容になっている。調理では下ごしらえから味見、配膳、下膳までの一連の流れを入居者と共に可能な範囲で行い、同じテーブルで職員も食事を楽しみながら、家庭的な雰囲気大切にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買物外出やパン屋さんの訪問では本人が好きなものを直接購入したり、要望を聞き職員が代行するなど随時対応をしている。家族と外食に出かける方もいる。献立内容に応じてお酒等の飲み物もお出ししている。苦手な食材がある場合は代替食を用意したり食べ易く工夫をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日常生活チェック表の記入により、排泄パターンを把握し、必要に応じ声かけや誘導、介助をしている。またトイレ使用後の污染がないか小まめにチェックをすることで、誰もが気持ちよくトイレを利用できるよう支援をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に応じた入浴の提供に心がけている。入浴嫌いの方には入浴チェック表を参考にしながら、その方の気分やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂けるよう対応に努めている。体調不良等で入浴困難な方には足浴や清拭の代替を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて自室や共有スペースで面々が気兼ねなく休める時間を大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴、職歴、特技、趣味等を活かしたレクリエーションや家事等を日常的に取り入れることで張り合いや喜びのある生活に反映できるよう支援させて頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数であるが、本人の希望や能力に応じ金銭を持つことで安心されている方もいる。買物の際には直接支払って頂けるよう配慮をしている。		買物などで金銭を使用された際は、本人の金銭管理能力に応じて、職員間で収支状況を確実に把握し、家族にもその内訳を随時報告していくように今後も取り組んでいく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	単独での外出が可能な方には、予め家族にも同意を頂いており、近くの自動販売機や店まで買物に出かけられている。天気が良い時は外のベンチで過ごしたり近くの公園まで散歩に出かけている。		個別の希望に沿った外出支援は、職員の体制も考慮しながら安全に対応が可能かどうか、無理な支援ではないか等の見極めをしながら今後も取り組んでいく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月2回買物日を設け、近隣のスーパーへ入居者と一緒に買物に出かけている。また日常的に家族が休日を利用して自宅へ帰られる方もいる。また天候が良い時は入居者数名、ユニット単位、デイと合同と、可能な範囲で計画を立てながら外出支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて自由に電話を使用できるようにしている他、手紙のやり取りなども、必要に応じて職員が代弁、代筆をしながら入居者にわかりやすいように支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関と各フロアー入口にウェルカムボードを設置し、来訪される方々には全職員が明るく笑顔で挨拶をするよう心がけている。夜の面会時間は決めているが、家族の都合に合わせて柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束をしないケアに職員全員で取り組んでおり、研修や事例集等の情報を通して理解に努めている。安全上ベッドに一部サイドレール、または自室内にセンサーの設置が必要と判断される場合は本人及び家族に説明し同意の下で対応をしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は館内全てにおいて施錠は行わず、自由に出入りができるようにしている。不穩時に単独で戸外へ出ようとされる方に対しては、見守りをしながら状況に応じて職員が同行するなど安全面に配慮した対応に努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が休憩に入る時などの交代の際には、入居者の所在や安全確認の引継ぎを確実にを行い、夜間は定期的に巡視をするなど常に安全に気を遣っている。エレベーター付近は死角になるためセンサーと鏡を配置し、フロアー全体の動きが判るように配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりの生活状況や能力に応じた対応を行っている。注意の必要な物品に関しては、保管場所を統一し、使用時は職員が必ず見守るようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の申し送りや会議の他、ヒヤリハット・事故報告書から得た安全対策の共有、法人内の定期的な勉強会を通して事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変や事故発生時に備えてマニュアルを作成し、事例を通して初期対応及び介護と看護の連携をその都度検証している。法人内で定期的に行う医療安全管理の勉強会にも参加している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の終業時には火元チェックを必ず行い、毎月1回火災を想定したシュミレーションをするなど、日頃から全職員が防災管理の意識を高める努力をしている。また関係機関の協力を得ながら法人全体の消防訓練を年2回実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者個々の状態に応じて、考えられるリスク面について家族に説明し意見等も頂きながら具体的対応策を講じて問題解決につなげている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	自己の訴えも含め、毎日の健康チェックを基に入居者の健康状態の把握を徹底するよう心がけている。体調の変化があれば速やかに医療連携体制の村上医院に連絡し指示を仰ぎ対応し、その経過と結果を家族に報告して、常に情報の共有を図りながら迅速な対応を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を書いた一覧表を基に、全職員が常に確認し症状の変化にも留意している。服薬ミスがおきないように職員が介助を行う際は、予め薬紙に書いた名前・日付を声に出して確認している。		服薬管理の対応マニュアルを作成し、引き続き安全な服薬支援に努める。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃より飲水管理に努め、食事面でも栄養士の指導も受けながら食物繊維の多い食材を使った献立作りと栄養摂取を心がけている。午前中にテレビ体操を行うなど、身体を動かす機会も日常的に取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施している。歯ブラシ・コップは週1回消毒し、歯ブラシも小まめに交換するなど清潔にも留意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や嗜好に応じて量や形態、代替食を提供している。また口渇感が乏しい方に対しては、飲水量の確認を行いながら脱水予防に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・入居者共に日頃から手洗い、うがい、消毒を徹底し感染予防には注意を払っている。保健所主催の勉強会参加や公報の回覧・掲示を通して職員全員が理解、把握するようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味(消費)期限を細かくチェックし、生ものはいつ調理するのか日付を記入すると共に、鮮度を落とさないように保管にも注意を払っている。食中毒の研修会の参加や職員会議を通して、食材の取り扱い、保管、調理器具の管理の徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはウエルカムボードやプランターを配置して親しみやすい雰囲気作り心がけている。建物の前のベンチは地域の方々が買物帰りに休憩したり、待合場所としても時々利用されている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は開放感があり、台所から聞こえるまな板を叩く音までもが生活感をかもし出している。花や掲示物などで季節感を演出し、冬は座敷のこたつに皆さんが集まり会話が弾んでいる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで居眠りしながらテレビを観たり...、エレベーターの談話コーナーで日向ぼっこをしながら本を読む人がいたり、座敷では近隣の店に定期的に行って行く新聞紙の買物袋作りをする人がいたり、共有の空間の中で幾つもの過ごし方が日常の中にあり、自分にあった居心地の良い場所でマイペースに過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	家族にも協力して頂き、自宅での愛用品や馴染みの物等を 可能な限り持参してもらい、住み易い自分の空間になるよう 配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	フロアと各居室に温度計を設置し、季節やその日の天候 に合わせ空調管理と調整を行っている。エアコンを使用する 際も適宜換気に気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	館内は段差をなくし、廊下・浴室・トイレには手摺を設置して 移動時の安全に配慮している。移動レベルに応じて夜間の みポータブル便器を自室内に設置したり、テーブルやソ ファーも各入居者の動線を考慮しながら臨機応変に配置を 考えている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	各居室やテーブルの座席の場所など、入居者が判り易いよう に名前を記したり、家事などのお手伝いをして頂く際は、職 員が事前にわかり易いように説明し、その方の「できる部分」 を大切にどの場面で支援を行えばよいのかを考えながら 対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	屋外のベンチに座って街の往来を眺めたり、バルコニーでは 花や野菜の手入れ、物干しのお手伝いやレクリエーション等 を通して空間を活用している。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初よりチームケアの意義を全職員が理解し、母体の村上医院と併設事業所との連携を有機的に図りながら、日々サービスの質向上に努力をしています。

入居者様お一人お一人の個性が生活の場面毎に反映され、笑顔があふれる嬉しい「ひろた」であり続けるために、これからも職員一丸となって取り組んで参ります。